

願成寺報

平成二十二年一月二十九日

〒四四〇・〇八二二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

最後のページに本年の行事予定を示します
今年も、五月に津市の本山にて御影堂大修理落成慶讃大法会が勤修されます。皆様にもご寄付頂いて完成した本堂の記念の法会ですので当山からも団体参拝したく計画致しました（三面に記載）
ご一読いただき、是非、ご予約下さい

■ 報恩講のご案内

左記により報恩講を勤修いたします。今年も聖人の七四八年忌です。準備不足で心配ですが、頑張つて勤めて参ります。いつものように戸田信行先生にお話いただきます。万障お繰り合わせて、お誘い合わせてお参り下さい。

二月 六日（土） 午前十時 法話 戸田 信行 師

お非時（弁当準備します）

午後一時半 法話 戸田 信行 師

七日（日） 午前十時 法話 戸田 信行 師

お非時（粗飯準備します）

午後一時半 法話 戸田 信行 師

汁粉

「今」に領く 「新」が始まる」

去年を表す漢字として『新』が選ばれました。政権が代わった・新記録が出た等の根拠があるようですが、それよりも、行き詰まった状況を打開したいという願いを強く感じます。

さて、新しい一步を踏み出すための条件は何でしょうか。それは重心を後ろに残していいことだと思えます。身体を後ろに残したままで足を上げたらひっくり返ります。まず、重心を現在の上に乗せなければ、新しい一步は踏み出せません。

しかし、新しくなりたい時、今の上には「このままは駄目・納得できない、領かない」という私の思いが座っています。これをどかさなければ身体を今の上に乗せることはできません。

私達は領かない理由を具体的に数限りなく述べる事ができます。頭の中には「納得できません」でいっぱいです。だから、そんな時はきっと忘れていきます。領くべき理由も私の上に輝いていることを。

「納得できなければ領けないのか？」問いは頭の中でなく、きっと身体の方からやってきます。そしてこの問いに気付いた時、新しい一步が始まります。

「納得しなければ念仏申さん」と頑張る私がいいます。納得するために正信偈の解説書を読んだり、法話会・勉強会に行ったりします。

鑑学（宗門中の学者の鑑）である田原市・東仙寺の稲垣舜岳先生が先日亡くなられました。こんな私にも親しくして頂き、質問を重ねたことがあります。そんな時、先生は妙好人（無学だけれど信仰に生きた人）を話題にされて、いつもその間違いを指摘して下さいました。

「納得しないと念仏申せませんか？」の問いを頂きました。

この問いを身体に刻むように問い返しながら歩んでいこうと思えます。きっと、現代人が忘れがちな一番重要な問いなのだと思います。

「宝物を残す」

『生死出ずべき道（＝何のために生まれたのか）』という問いは、「何をこの世界に残すのか」という問いと等しいと思います。そして、私の思いで実現し・残したものは案外はかなく、実は「残せなかったという身の事実」の方が尊く残っていくのだと思います。そのことに気がつけば、人生が少し換わるかもしれません。

親は子に沢山のものを残そうとします。例えば財産。子の幸せを願い、自身は節約し苦勞して、沢山のものを残したとします。けれど子の側では、財産の大きさの方に目が奪われ、親の思いに気がつかず、兄弟喧嘩を始めたり致します。親の苦勞が子に見えていない場合は、更に悲惨なことになっていきます。

「私のためにして下さっている御苦勞」という感覚は余裕のある所では伝わり難い気がします。切羽詰まった状況の中でこそ伝わるのではないのでしょうか。親が忙しく金持ちの子がどんどん孤独になっていく…そんなことが確かにあると思います。

親は子に能力を残そうとします。お稽古ごとや学習塾に通わせます。順調に、親の思い通りに結果を出していく子は稀だと思えますが、順調であればある程、親の思いに気づかず大人になっていくでしょう。能力は育った、けれど親の残したものではなかった…親としては寂しい感じが致します。

大概の場合は、子に裏切られるのだと思います。バイオリンも駄目、水泳も駄目、勉強も駄目、後片付けの躰も駄目、等等。どうしてこんな子供を授かってしまったのだろう…と愕然とします。しかし、こんな時こそ重要なのです。子へ期待する「私の思い」が剥がされる大事な局面です。逆にこのことが大事なので、親は裏切られるまで子に期待するのかも知れません。それが『親に本質的な業』だと思っています。

「期待通りでないけれど寝顔は可愛い」など、些細な発見が私を親と

して育ててくれます。そして、そんな風に育った親の姿が、子の上に残るのではないのでしょうか。「うちの子は全然言う事を聞かなくて…」と笑うお母さんの子供はきつと大丈夫です。大切な宝物がもう、その子の手の中にあります。その子がその子になっていきます。

子の側でも「親の期待に背いている私」は認知されていると思います。だからこそ「それでも見放さない私の父」が育ちます。それが宝物です。「必ずしも期待通りでない人生」を歩むための大切な道標は、このように受け渡されていくのだと思います。

親鸞聖人はあるお手紙の中で法然上人の言葉『浄土宗の人は愚者になりて往生す』を引用しておられます。ここで「愚者」とは、思い通りにならない・納得できない事柄をも呑み込んで引き受けている人のことでしょうか。「往生す」は、「大切な宝を残す」と読み換えます。

先代住職は「馬鹿を見たけりや親を見ろ」と言っていました。時に寂しそくに…時に笑いながら。申し訳ないことだなと思います。

残して下さった宝物をお念仏で磨きつつ、きつと私も言うのでしょうか。

「馬鹿を見たけりや親を見ろ、そして親になってみる」

(住職 福澤 秀倫)



「本山参拝バスツアーご案内」

本年五月十三日（木）から十七日（月）まで、三重県津市の高田本山にて御影堂大修理落成慶讃大法会（※1）が勤修されます。

皆様にもご助力頂いて完成した本堂の記念の法会です。

皆様と共に参りたく思い、バスでの団体参拝を計画しました。

本山参拝として初めての一泊旅行です。開催できる人数が集まるか

心配ですが、楽しい旅行にして参ります。

是非ご参加下さい。

■日時 平成二十二年五月十六日（日）～十七日（月）

■日程 十六日 九時〇〇分 寺・豊橋駅集合

十二時〇〇分 本山着・青少年会館にて昼食

一三時三十分 記念講演・五木寛之 師

十五時〇〇分 午後法会

十六時三十分 本山出発

十七時三十分 鳥羽温泉着・扇芳閣（予定）

懇親会ほか

十七日 詳細未定 伊勢神宮・おかげ横丁昼食

他

十八時〇〇分 寺・豊橋駅到着予定

■会費 二万円

■募集人数 四〇名

■申し込み 願成寺までご連絡下さい（人数に達し次第メ切ります）



※1. 落慶法要について

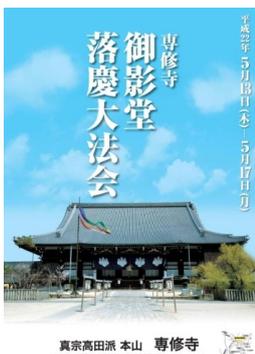
全体の内容については『本山だより』

高田本山ホームページ

(<http://www.senjui.or.jp/rakkei.html>)

等をご参照下さい

または寺にてお尋ね下さい



「夕方法話会ご案内」

○『そのままの私が願われている』をテーマに二つの法話会を行います。

○六月には、法話楽団・迦陵頻伽様が再来山して下さいます。

昨年五月の大法会では大変お世話になりました。是非、もう一度の声にお応え出来て嬉しく思っています。ご来聴下さい。

○七月には、讓西賢先生が来山して下さいます。

牛川の正太寺様でのご法話の後、当山にお出掛け頂きます。

住職とカウンセラーの肩書を持っておられますが、新家の素質も持つておられます。明るく面白く可笑しい話しぶりの中に、深い内容をお聴きします。是非ご来聴下さい。



讓西賢（ゆずりさいけん）先生の著書

『自分の心』に気づくとき 法蔵館

人間の心が苦しみから解き放たれ、
健やかなものに変わっていく過程を分析

『願成寺誌』について

本堂の耐震修理が落成し、聖人七五〇回御遠忌も勤めることができました。二〇二二年には、当山の開山から五〇〇年を数えます。節目の時節にあたって、当山の縁起由来を冊子に纏めたいと思っておりますが、資料も少なく実現しませんでした。

小向町の植田様にご尽力頂いて、昨年十二月八日『願成寺誌』を発行することができました。有難く嬉しくページを開いております。

皆様にもお送りさせて頂きました。感想などお寄せ頂ければ幸いです。また、寺や先代との想い出話・寺に対する要望などもお聞かせ頂きたくお待ちしております。

（住職）

行事予定（平成二十二年三月以降）

三月 二十一日（日） 春季彼岸（讚仏会）・永代経法会

仏様の遺徳を讃え 仏法を鏡として
私自身を振り返ります

五月 十六日（日）

団体参拝・御影堂大修理落成慶讃大法会

一泊二日・バス旅行にての参拝

参加者募集・詳細別記

六月 十二日（土）

夕方法話会・法話楽団 迦陵頻伽師

『命の尊さを魂に語りかける法話』
昨年に続き再来山して下さいます

七月 十八日（日）

夕方法話会・護 西賢師

『苦悩と共に生きる』

住職で臨床心理士、大活躍中の先生です

九月 二十三日（木・祝）

秋季彼岸（讚仏会）・永代経法会

仏様の遺徳を讃え 仏法を鏡として
私自身を振り返ります

十一月 三日（水・祝） 高田本山団体参拝

本山の納骨堂法会に参拝します
市内・近郊の高田派寺院と共に
バスを借りての日帰り旅行です

◆ 夕方法話会は、他の団体やお寺様の企画に便乗して開催します。

なかなか単独ではお呼び出来ない先生方です。

ご年配の方々は勿論ですが、子育て中のお母様にも

聞いて頂きたいお話です。お誘い合わせて、是非ご来聴下さい。

↓ 後記 ↓

○ 早いもので、住職になって十年になるうとしています。

寺の仕事には、そのうち慣れて楽になるのかなと思っておりましたが、年々苦しくなってきました。

○ 情熱が空回りするから？

オッチョコチョイで計画性がないから？

歳をとって体力が落ちてくるから？

住職としての資質に欠けるから？

など等、言い訳を考えればキリがありません。

そして、頑張るべき理由を見失いそうです。

○ 毎年ですが、上手に年を越せません。

墓地にはまだ雑草が生えているし、銀杏の葉っぱも残っています。

土はコンクリートで覆ってしまつて、樹も全部切つてしまおうかと考えます。楽になるだろうな…

掃除は自走型掃除機に任せて、

お経もビデオに撮つて大型スクリーンに自動再生するか…

○ でも、そうしたらお坊さんの要らない寺になってしまいますね。

つまり仕事がなくなる。それではやはり少し困ります。

では、どこまでなら楽しんで良いのかな？ と考えます。

坊さんの本質だけ残して、合理化していく作戦です。

難しい問題ですが、答えが見つかれば楽になります。

○ 本当は知っています。

こんな風に考えること自体、坊さんの本質を見失っているのだと。

「どこまで楽ができるのか」でなく「どこまで苦勞できるのか」を問うことが坊さんとして正しいと反省します。「苦勞の中に磨かれる感性がある」を忘れて、如来の慈悲を語ることはできません。

誰でも知っています、尊さは苦勞の中にしか見出せません。

さて、草取りをどうしましょうか？

○ 当面、民主党政権の間は、自分で頑張る方向でやってみます。

だって、「コンクリートから人へ」なのですから。

願成寺報

平成二十二年六月一日

〒四四〇・〇八二二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

本号は、六月と七月の夕方法話会を中心にご案内致します。これも初めての試みですが、頑張って準備して参ります。

三面に日時など記してありますので、お誘い合わせて御来山下さい。

■ 真宗法話へのお誘い

宗教にアレルギーのある人が多いのは知っています。確かに、我を忘れて熱狂させる危ういものが沢山あります。けれど真宗は、我を見つめ直すための教えです。生活や人生の悩みに、答えを提示し押し付けるのではなく、悩み方のヒントを語るのが真宗の法話です。危うさはありません。試しに一度、聞いてみませんか？

私はこのままでいいかしら

みんなは 仕事や学校へ行くのに

私は独りお家の中

私の仕事は何？

私は必要とされているの？

パパは仏様の遣いと云うけれど私って・・・何？



「そのままの私が願われている」

凡夫というは 無明煩惱 我らが身にみちみちて
欲もおほく 瞋り腹だち そねみねたむ心多く ひまなくして
臨終の一念にいたるまで とどまらず きえずたえず

《親鸞聖人・一念多念文意》

世界で一番幸せな存在は、産まれたての赤ちゃんだと思います。どんなに激しく泣いていようと、母親が温かい眼差しを向けているのであればその子は幸せなのだと思います。

ところが赤ちゃんはそのうちに「いやだ、いやだ」と言い始め「自分でやる！」と頑張ります。

それから五十年経ちました。過ごしてきた中で、想い出すと叫びだしたくなる苦い記憶が沢山あります。逃れたくて一所懸命に蓋をしております。ため息をつきながらだんだん孤独になっていきます。

娑婆世界で凡夫として生きていくことは、大変難しく厄介なことだと思えます。歩む先は霧に閉ざされ、過去には失敗ばかり。内に不安を抱えるが故に、外に不満をもらす。

この現実から救われたいと、親鸞聖人に教えを求めます。

すると、凡夫である私の現実を変えることはできない。どこまでも救われることのない私なのだ。…けれど、そのままの私が仏様から願われているのだから、今も母親の胸の中の赤ちゃんと同じなのだと知らされます。

ため息をお念仏に換えても、問題は解決できない。けれど、

ため息をお念仏に換えれば、

問題を抱えたままの、このままの私が、そのまま愛おしくなってくるのです。



「居場所を見つける」

ラグビーは、イングランドのパブリックスクールで発祥したスポーツです。二つのチームが、楕円形のボールを奪い合って相手陣のインゴールまで運びトライを奪う、あるいはH型のゴール上部に蹴り入れて得点を競います。紳士の国で生れた紳士のスポーツで、その所以は「One for All, All for One（一人は皆のために、皆は一人のために）」の掛け声に顕れています。

試合中の△△は、チームでしょう。ボールを持っている選手も、そうでない選手もチームのために一所懸命に働きます。観客はボールを見ている筈ですが、ボールのない所でも、走って、ぶつかって、倒れて、…そんな中で奇跡的なプレーが生まれ、その選手が喝采を浴びます。All for Oneの瞬間です。また、一人のミスをチームでカバーしようと働くのもAll for Oneの現場でしょう。

笛が鳴って試合が終わり、ノーサイド（敵味方なし）となったとき、△△は、審判を含め試合に参加した全員となります。ひよっとしたら観客も△△に含まれるかも知れません。この場合、掛け声は「一人はゲームのために、ゲームはそれぞれの感動のために」となります。こんなことを学べるラグビーが、日本でももっと流行ったらいいと思います。

まあ、スポーツは須くこのようにあるべきなのですが…
OneとAllについての幸せな関係を紳士のスポーツに学びました。それは拍手をし合える関係なのだ。

One||私、for||拍手、All||家庭とすると、
明るい家庭のための条件を記述できます。

私達が結婚を決めた当初、先輩の奥様から「幸せにしてもらおうと思っちゃだめヨ、幸せにしてあげようと思いなさい」のアドバイスを頂きました。



私達は不意を突かれて曖昧な返事をしましたが、それぞれに領き肝に銘じたように思います。

それから十二年経ちました。「幸せにする」は難しいなと思います。「なんでこんなに頑張っているのに幸せになってくれないのか！」いろいろなことを考えます。性格の不一致・相性が悪いのかも、夫として・父としての素質が元々ないのかも、…等等。拍手をし合えない関係の中で大変居心地悪く過ごします。

「拍手することを先に考えたらどうですか？」遠くの方から声が聞こえます。しかし、私の頑張りを解ってくれない私の家族に、私の方から拍手することはどうしても出来ません。

結局、『私の家族は』と思う所に問題があるのです。この下には必ず『こうあるべきだ』が続きます。「べきだ」から外れたものを褒めることは出来ません。全部不満の対象となってしまいます。

△△を町内・会社・学校・自治体・国・世界・宇宙…と広げても、私が関わりうとする場合、必ず『私の』と変化してしまい、『べきだ』の思いが生まれ、全て不満の対象となります。そして、頑張れば頑張るほど不満がつのる結果となってしまいます。

そんな時は、けなげな生き物を褒めるとよいと思います。例えば、人知れずコンクリートの割れ目に咲いている、名も知らぬ小さな草花を褒める。すると、自分の在り方の間違いに気づきます。気づいた私が、その花から褒められている感じがしてきます。

そんな草花が見つからない時は、声に出して「南无阿弥陀仏」とお唱え下さい。きっと、世界との関係が少し変わると思います。

弥陀の浄土に帰しぬれば すなはち諸仏に帰するなり

一心をもちて一仏を ほむるは無碍人をほむるなり

《親鸞聖人・浄土和讃より》

(住職 福澤 秀倫)

夕 方 法 話 会

— 親鸞聖人 750 回御遠忌記念 —

“そのままの私が願われている”

上記テーマにて2回の法話会を行います
どなたでもご来聴いただけます
お気軽にご来寺下さい

6月12日（土）午後6時～

法話楽団・迦陵頻伽 師

昨年五月の本堂修理落慶法会でお話頂きました
もう一度の声にお応えしてお迎え致します
温かなメッセージが身体に直に流れ込んできます



如来から慈しまれていないのちは1つもない
あなたは大切な人です

7月18日（日）午後5時～

讓 西賢 師

住職と心理カウンセラーの2つの肩書と
嘶家の素質を持っておられます
楽しい話しぶりの中に深い内容をお聞きます



人間の心が苦しみから解き放たれ、
健やかなものになっていく過程を分析



讓先生の著作
法蔵館

◆ 会場 真宗高田派 願成寺 本堂・境内

◆ 駐車場 イズモ葬祭 貴賓館 様 駐車場

* ご厚意で止めさせていただきます 通夜等にご配慮下さい

◆ 会費 無料

◆ 連絡先 真宗高田派 正覚山 願成寺（がんじょうじ）

440-0812 豊橋市東新町 28

☎ 0532-52-9601 / 090-5104-5886



行事予定 平成二十二年六月以降

六月 十二日 (土)

夕方法話会・法話楽団 迦陵頻伽師

本紙三面に詳細

七月 十八日 (日)

夕方法話会・護 西賢師

本紙三面に詳細

九月 二十三日 (木・祝)

秋季彼岸 (讚仏会)・永代経法会

仏様の遺徳を讃え 仏法を鏡として
私自身を振り返ります

十一月 三日 (水・祝)

高田本山団体参拝

本山の納骨堂法会に参拝します
市内・近郊の高田派寺院と共に
バスを借りての日帰り旅行です

二月 十九日 (土)

報恩講

二十日 (日)

真宗寺院として一番大事な法会です
御開山親鸞聖人の恩徳を仰ぎます

◆ 本山御影堂の落慶法会・団体参拝バスツアー報告



総勢三十九名でお参りしてきました。

一泊のバスツアーは初めてで、どうなることかと心配しましたが、大きなトラブルもなく無事に帰って来ることができました。懇親会では、次も参加したいとの声を聞き、ホッとしたことでした。皆様、ご協力ありがとうございました。

本山では再来年五月に、御遠忌法会が勤まります。内容はまだ未定ですが、再度バスツアーを企画したいと思います。今回の経験を踏まえてパワーアップして臨みます。

† 後記 †

○ 六月に入って、蚊が出て参りました。梅雨が来て夏になるのですね。今年も蝉が賑やかに鳴いてくれるでしょう。

○ 長淵剛さんに蝉の歌があります。「蝉が泣く…チキシヨウと…」の歌詞が耳に残ります。そりや蝉に生まれたら悔しいだろうなと思います。樹皮に生まれて、すぐに土の中に入り、美味しくなさそうな土を食んで「いつか明るい所へ出てやるぞ」と何年か頑張る。けれど、何かに踏み潰されていることもあるでしょう。時が至って地上に出てきても、木にしがみついたまま力尽きている者があります。運よく殻を出て、飛んだ・鳴いた、としても、一週間程度だと聞きます。

○ 哀れだなど思いながら、その声を聞けば「チキシヨウ、チキシヨウ」と聞こえて当り前です。

○ 坊さんになった頃、今から十年前ですが、今よりもっと声がよく「お父さんとそっくりだね」と云われておりました。美声でならした父とそっくりなのは嬉しい褒め言葉で、私は得意になっておりました。

○ 梅雨が明けた七月下旬になると、蝉の声も盛りになってきます。本堂でお勤めを始めると、外でも蝉が鳴き始めます。窓を開け放っているので煩く、コノヤロウと思います。親指程の小さな生き物に声で負けるなんて有得ない、負けじと大声で勤めます。するとお盆ごろには、声が嘎れて出なくなってしまう。

○ 最近は何もお勤めしてあります。蝉様にはかないません。木の汁だけでそんなに大きな声で鳴くなんて、すごい生き物だと思います。すると蝉の声は「どうだ、どうだ」と聞こえます。

○ また、こちらが落ち込んでいた時は「大丈夫ですよ」と聞こえます。あなたから見れば哀れな生涯かも知れませんが、一生懸命生きています。気が付けることに気が付いて、出来ることをやっています。今のあなたにしか気が付けないことがありますよ。今のあなただからこそ、出来ることあるのじゃないですか？

頑張れとは言いません。一步一步、歩みましょう。
大丈夫、大丈夫、ジジジジジジ